

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400405		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホーム ル・サンテリオン東郷		
所在地	鳥取県東伯郡湯梨浜町野花443番地1		
自己評価作成日	令和 6年 11月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3171400405-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保険情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和6年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東郷湖畔、中国庭園に隣接した風光明媚な景色と、果樹園等の自然豊かな環境の中で、四季折々の行事や外出の機会を持ち、地域との交流を図りながら生活しています。
 住み慣れた地域の中でご利用者・ご家族・地域と共に生きる喜びを感じ合えるグループホームを目指し、お一人おひとりを尊重し、安心して穏やかに生活出来るよう能力に応じた生活の質を高める支援をしています。
 介護老人保健施設と併設のグループホームであり、医療連携、理学療法士、栄養士など専門職の協力体制も整っています。又法人施設内のグループホームと合同研修や交流の機会を持ち、職員の質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目の前に東郷湖がある風光明媚な環境にある老人保健施設に併設された開設から23年が経った1ユニットのグループホームです。
 住み慣れた地域の中で利用者・家族・地域と共に喜びを感じ合えるグループホームを目指し、一人ひとりが安心して穏やかに生活できるようその人らしく持てる力が発揮でき、生活の質が向上できるよう支援をされています。
 昨年度より年に1回「思い外出」を開始され、本人希望が叶えられるよう支援し外出の機会を持たれています。
 介護老人保健施設と併設のグループホームですので、医療連携、理学療法士、栄養士、歯科衛生士などの専門職の協力体制が整っています。
 また、法人内のグループホームとの合同研修や交流を持ち職員の質の向上に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に基づき個人の目標へと取り組んでいる。 ・ステーション内法人理念、目標を掲げ共有している。 ・毎月セクション会議にて目標達成状況の確認をしている。 	法人理念、目標を掲げ、共有され実践に繋がるよう意識されており、ステーション内法人理念、目標を掲げ周知されています。理念に基づいた個人の目標へと取り組まれており、毎月セクション会議で目標達成状況の確認が行なわれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対応しながら、地域との交流、地域活動への参加が徐々に増えている。 ・交流再開して繋がりはあるものの、地域の一員となり日常的に交流しているとはいえない。 	感染予防対策をしながら地域との交流、地域活動への参加が徐々に増えておられます。東郷湖アダプト清掃活動への参加は継続して行なわれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌などで情報発信しているが、認知症の人の理解や支援方法など、地域の人々に向けて活かしているとはいえない。 ・年に1～2度実習生や高校生ボランティアを受け入れ、認知症の人の理解に繋げている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、地域の方、家族代表、行政の方の参加があり、グループホームの取り組み報告、意見交換を行い会議での意見をサービスに反映している。 	2ヶ月に1回運営推進会議を開かれており、利用者、家族代表、地域住民(民生委員・区長)、行政からの参加があり、グループホームの取組みや報告、意見交換を行ない会議での意見がサービスに反映できるよう図られています。会議で出された意見は職員にも伝えサービス向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に出席して頂き情報共有、意見交換を行い協力を得ている。 ・ケアマネを通し、市町村へ介護保険関係や利用者の状況変化を必要に応じて連絡を行っている。 	役場担当者にも運営推進会議に出席して頂き情報共有、意見交換を行い協力を得ておられます。グループホームだけでなく老健、通所介護等、総合的な事業所として役場との連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束をしないための研修実施、委員会にて定期的に施設内巡視を行っている。 ・身体拘束を行わないケアに心掛けている。 ・「身体的拘束等適正化の為の指針」読み合わせを行い、基本的な考えを理解している。 	<p>身体拘束廃止委員会は3ヶ月に1回開かれており、身体拘束をしないための研修会、委員による定期的な施設内巡視が行われています。「身体的拘束等適正化の為の指針」の読み合わせをされ、基本的な考えの理解が図られています。職員と利用者の信頼関係を大切にされ、身体拘束のないケアを心掛けておられます。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・「虐待の芽チェックリスト」アンケートの実施し、高齢者虐待防止に努めている。 ・研修に参加し、虐待とは何かも含め防止の徹底に努めている。 ・「虐待防止のための指針」読み合わせを行い、虐待防止に努めている。 	<p>虐待防止委員会は3ヶ月に1回開かれています。「虐待の芽チェックリスト」アンケートを実施され高齢者虐待防止に努められています。「虐待防止のための指針」の読み合わせを行ない、虐待防止に努めておられます。研修に参加され、虐待とは何かについて学ばれています。接遇マナー研修も行われ言葉掛けを意識されています。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・「権利擁護」「成年後見人」の研修参加した。 ・現在利用対象者はいない 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時は契約書と重要事項説明書に沿って説明し、理解を得ている。変更等ある場合はその都度説明し、同意を得ている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会や家族への聞き取り(3か月に1度)や運営推進会議にて意見要望を確認できている。 ・利用者、家族への満足度調査を実施し、意見や要望を伺う機会を設け、結果から改善につなげている。 ・法人苦情受付委員会、組織全体で受け付け対応する仕組みがある。 	<p>利用者・家族への満足度調査を実施され、意見や要望を伺う機会を設け、結果から改善につなげられています。面会、見直しカンファレンスの際や運営推進会議に於いて家族からの意見・要望等を聞かれ確認されています。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回GH会議にて職員の意見を聞く機会を設けている。・年3回の個人面接などで聞き取りあり意見を話す事が出来る。 ・年度末の「きらっとI」の実施から運営やサービス向上に向けての意見を提案し反映されている。 	<p>毎月のGH会議で意見を聞く機会が設けられています。また、年3回の個人面談の場でも聞き取りがあり、意見を話すことができます。年度末の「きらっとI」の実施から運営や向上に向けての意見が提案でき反映されています。職員からの意見が言いやすい体制が整えられています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・上席は職員個々の職務目標、評価や行動評価にて把握し面接時、意向や要望を確認し各自が向上心をもって働けるよう職員環境に努めている。 ・人事考課制度、身上報告書を記入する機会がある。 ・職員満足度アンケートより、職場環境改善、向上に努めている。 	人事考課の良い点を取り入れられ、働きがいのある職場環境を目指しておられます。職員満足度アンケートより職場環境改善、向上に努めておられます。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内、法人内で研修への参加案内がある ・オンライン研修や動画研修など状況に応じながら研修に参加できている。 ・職員レベルに応じた法人外の研修参加を行っている。 	施設内、法人内で研修への参加案内があり、職員レベルに応じた外部研修も行われています。オンライン研修や動画研修など、状況に応じて研修が受講できるように法人で取り組まれています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・部会にて事例検討会、連絡会にてサービスの質の向上をさせる取り組みや研修、情報交換を行っている。 		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前調査やアセスメントにて、要望等に耳を傾けながら良好な関係づくりに努めている。 ・サービス利用前に困りごと、要望を伺っている。 ・希望があれば、施設見学等受け入れ、安心に繋げている 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前調査、入居確認においてコミュニケーションを十分にとっている。 ・家族との連携を密にとり信頼関係の構築に努めている。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーが中心に実施している。ニーズに応じてGH入居が適切か他事業所も含め検討している。 ・必要に応じて、他機関、他部署から情報を得て適切な支援に努めている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の立場に立ち、その人に合ったケアを行うようにしている。 ・本人の出来る事や意欲を大切にしている。 ・サービス提供を行うだけでなく、共に生活するという気持ちで関係作りに努めている。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・何かあれば連絡を行い、情報共有に努めている。 ・通院や面会、外出、外泊など家族との関りを大切にし協力をお願いしている。 ・職員だけでなく、家族と共に利用者を支援していくと考えている。 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より外出や外泊が自由に出来るようになり、家族や馴染みの人、場所との交流再開が期待される。 ・面会や外泊、外出を通して関係が途切れないようによく努めている。 	今年度より外出や外泊ができるようになり、家族や馴染みの人や場所との交流が再開できるようになり、ふるさと訪問を実施されました。	馴染みの人や場所に出掛けた時や写真、手紙やハガキでの交流の中から、思い出話をして頂き、回想法につなげて行かれる事も良いと思います
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や生活の中で必要に応じて、利用者同士の関わり支援を行っている。 ・レク等を通し利用者が孤立しないように支援している。 ・利用者の関係性を把握して関りが持てるよう支援している。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退居後も相談しやすい体勢、必要なサービス利用の情報提供や相談を行っている。 ・個別に対応している。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・希望、意向の把握、過ごし方の把握に努めているが、いつも同じ過ごし方になっている ・入居前の聞き取りや入居後もアセスメント、カンファレンス、事例検討会を行い、希望に沿う様検討している。 ・聞き取りだけでなく、日々の関りから希望や意向を掘り起こし、サービスに繋げている。 	職員は日々の関わりの中から意向の確認をされています。24時間シート、フォーカスチャータリングに記録を残し、職員と一緒に寿司を食べに行かれたり、お祭りに出かけ昔の同僚に再会され喜ぶ姿が見れるなど本人の希望をできるだけ叶えるための支援が行われています。	利用者の意向等から、生きがいや生きる目標につなげていられる事も良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・センター方式を活用し、これまでの暮らしの把握、情報収集し、サービスや関係作りに活かしている。 ・事前での聞き取り調査や会話の中で、把握に努めている。 ・大切な関係は本人、家族の要望としてケアプランにも反映できるようになっている。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族から情報収集するが、一人ひとりの過ごし方となっていない場合がある。 ・シートを使いながら現状の把握、検討を行っている。 ・アセスメント、ミニカンファレンス、モニタリングにて現状把握ができてる。 ・日々の記録、ケアチェックにより現状把握している。 		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族から聞き取り話し合う機会を設けている ・3ヶ月に1度見直しカンファ行い、ケアプランを作成。GH会議でも利用者状況について話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映している。 ・モニタリング、ミニカンファレンスを行い、意見を確認しケアプラン作成している。 ・本人との話し合いは十分とはいえないが、家族や関係者とは話し合いはできている。 	運動機能に対する計画も実施されており、評価時期に合せケアプランも3ヶ月に1度見直しが行われています。担当が本人の意向を確認され、モニタリング後に計画作成者に提案され、他の職員や家族も参加されたカンファレンスを行ないプラン作成が行われています。状態の変化時には随時のプラン変更も行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・変化があったことは記録できており、共有出来ている ・毎月のモニタリング、ミニカンファレンス、3か月毎の見直しカンファレンスで情報共有しプランに反映している。 ・記録の時間もあり、日々の様子やケアの評価、気づきなど記録し見直しに生かしている。 	担当が計画作成者と一緒にプラン作成をされているので必要な記録を的確に書かれており、気づきをみるみるノートに書かれ職員間の情報共有も行われています。勤務時間内に記録の時間も設けられています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・その時の状況に応じ、他事業所や関連機関と連携しているが柔軟な支援が難しい場面がある。 ・リハビリ専門職員に必要に応じ相談、アドバイスを受けながらケアに活かしている。 ・突発的な体調変化など併設の老健医師、看護師の協力を得ている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の読み聞かせグループや盲導犬との交流など地域ボランティアとの関りを再開している。 ・地域資源の把握が不十分で、暮らしの中の楽しみが少ない。地域の活動に参加したり、希望に合わせた活動を引き続き行えるよう支援できるようにしたい。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時、かかりつけ医の確認や希望を伺っている。家族通院対応時は「通院連絡表」で主治医に相談できる体制がある。職員が同行する場合は、家族の要望があれば相談し、受診結果を報告している。 ・体調変化時の相談や受診できるよう支援しており、適切な医療提供に心掛けている。 	<p>利用開始時に、利用者本人、家族等が希望するかかりつけ医を選択して頂いています。現在のかかりつけ医については、全て往診のない医療機関なので全員通院となっています。家族通院対応時は、通院連絡表で主治医に相談できる体制があります。職員が同行する場合は、家族の要望があれば相談し、受診結果を報告しておられます。体調変化の際には同一建物内の老健の看護師に相談、対応を支援されています。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・部署内に看護師がいらない為、必要に応じて老健看護師へ報告、相談を行い適切な受診や看護を受けられるよう支援出来ている。 ・判断に困る時や状態変化について相談でき、受診や処置ができています。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時、看護連絡表を提供している。月1回の医療連携会議にて病院関係者との情報交換や相談ができています。 ・入院訪問や地域連携室との情報交換も密に行われている。 ・病院側の都合により治療の途中で退院する事があったが協力病院との情報共有も含め相談員が窓口となり関係を作っている。 	<p>入院時には看護連絡表を提出され情報提供が行われており、病院の地域連携室との連絡を密に取り、早期退院に向け入院訪問も行われています。退院時には退院カンファレンスに参加し退院後の対応についても情報交換しておられます。</p>	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時、重度化、終末期に係る対応について施設でできる事を説明し、同意をして頂いている。 ・状態の変化により今後の見通しや家族の意向確認等情報共有し、相談対応を行っている。 ・現在終末期に向けた取り組みは行っていない。 	<p>利用開始時には重度化、終末期の対応について説明され、同意を得ておられます。状態変化に対する対応を家族の意向の確認を行ない、情報共有をされ移行先の相談が行われています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・対応出来るよう緊急時マニュアル、緊急連絡網がある。 ・マニュアルに沿った研修有るが、急変時などの対応訓練が不十分に感じる。 ・スキルが保てるよう年に1回は続けている(有資格者)がすべての職員ではない 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルがあり、年2回防災訓練している(日中、夜間火災避難訓練、水害訓練) ・地域との協力体制が不十分だが、反省点の共有ができています ・図上訓練や研修を実施 	マニュアルがあり、年2回の防災訓練が行われています。(日中・夜間火災訓練、水害訓練)地域との協力体制が不十分と感じられていますが、反省点の共有はされています。BCPの策定も行われており、図上訓練や研修は実施されています。	地域との連携については運営協議会の機会を利用されることを検討下さい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーに配慮した言葉かけ、それぞれの利用者に即した言葉かけをしているが、慣れない言葉遣いになっていることがある。 ・コンプライアンスの研修、プライバシー保護研修を受けている。 ・人権委員発信の標語を掲示し啓発、周知を行っている。 	初心に戻った言葉掛けができるように注意されています。コンプライアンス研修、プライバシー保護研修を受講されています。人権委員発信の標語を掲示し、啓発、周知が行われています。マニュアルに従って一人ひとりの人格を尊重した支援が行えるよう心掛けておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定が認知症の為難しい利用者もあるが、可能な限り希望を聞き、決定してもらうよう関わっている。 ・聞き取りや身振り、手ぶりから思いを汲み取り、思いに沿った行動が出来るように家族と協力し支援している。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・食事時間や場所、入眠時間や活動など個々のペースに合わせたケアに努めている。 ・入浴や外出等、職員の業務ペースとなってしまう事があるが可能な範囲で希望に沿った支援をしている。 ・希望を確認する事は少ないが、楽しみの持てる活動をするようにしている。 ・完全に希望通りとはできていないが、出来る限りその方のペースに合わせた支援を行っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・衣類や持ち物など選ぶことができる人には選択してもらっている。 ・白髪染め等希望があり支援している ・利用者と着替えを選んだり鏡の前で整容して頂き、その人の希望、家族の希望に合わせた支援ができています。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事を楽しみにしている利用者に対する対応ができています。 ・嫌いな食べ物がある時は代替品を準備している。 ・職員が準備を行い片付けを利用者と一緒に行っている。 ・出来る部分での手伝い、片付けを行ってもらっているがその時の気持ちで強要はしていない。 	食事は3食併設老健の厨房で作られています。形態や病食にも対応されています。職員と一緒に食事の準備や片付け等出来る事をして頂ける方もあります。行事でのおやつ作りは行われています。外食にも出かけられています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、水分が摂れるよう支援しているが難しい場面がある為、好きな物を提供したり栄養士に相談し、本人に合った食事を提供している。 ・好みの物を探したり、タイミングや形状をアセスメント、検討し水分量、食事量の管理を行っている。 ・本人のペースや習慣に合わせ支援しているが、主治医の指示により最低限の量が決まっている利用者もある 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの声掛け、説明を行い、出来ない部分を介助している。 ・嫌がられたり立腹されてしまう方には、本人任せとなり不十分なこともある。 ・半年に1度歯科衛生士が口腔内を確認し、個々に合わせた口腔ケアの指示を受けている。 ・歯科衛生士の指導を受けながらひとり一人に合わせたケアを行っている。 	口腔ケアはそれぞれの状態に応じた口腔ケア用品を用い、食後に声掛けや支援をしながら行なわれています。半年に1回歯科衛生士が口腔内を確認し、個々に応じた口腔ケアの指示を受けておられます。義歯は夜間は預り、洗浄されています。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄表で管理しトイレ案内し、排泄支援に取り組んでいる。 ・状態変化に合わせて話し合い、パターン把握やタイミング、方法の変更を行っている。 ・ヤクルト、オリゴ糖、牛乳を使用し、便秘予防検討中 ・パターンや習慣に合わせトイレ案内しているが失敗することもあるが、職員間情報共有しながら支援している。 	排泄表で排泄パターンを把握され、それぞれに応じた声掛けや誘導、介助が行われています。頻尿の方もおられますが、自分でトイレに行かれており、全員トイレで排泄をされています。夜間は定時に声掛けをされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・オリゴ糖等検討し、個々に応じた予防が出来ている。 ・便秘時のコントロール方法共有している。 ・飲み物や食べ物で調整を試みている。 ・排便困難時には指示の浣腸や便秘薬でコントロールできている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回入浴して頂けるよう曜日、時間を決めている。 ・職員の業務の都合で変更することもある。 ・曜日と時間は決まっているが、その日の希望や体調に合わせて時間をずらしたり、曜日を変更して対応している。 ・朝や夜の入浴は実施出来ない。 	月曜日～土曜日で週2回、午前、午後の時間で行ってられます。その日の体調や希望により時間をずらしたり、曜日の変更が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活パターンや体調をみながら、室温や明るさなど環境を整えて安眠を支援している。 ・パジャマ更衣の習慣のある利用者は就寝前の交換を実施している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合った服薬支援方法を行い、薬の効用についても観察し、医師へ報告、相談できている。 ・薬の変更時は職員間で周知し、症状の変化の確認に努めている。 ・情報交換や情報をファイルする事により周知しており状況の変化も確認している。 	薬は薬局から老健の連携する看護師に配達され、看護師による仕分け後、ホーム職員による配薬されています。薬が変更された時は職員で情報共有され、利用者の状態変化がないか注意され、何かあれば看護師に連絡し、医師の指示を仰がれています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の楽しみ、生活歴を探りながら、楽しみや気分転換出来るような活動の提供をこころがけている。 ・外出や行事等で気分転換出来ているが、活動がマンネリ化している。 ・ケアプランに楽しみや役割を反映し、実施している。 ・生活歴を把握しても、十分に活かすには至っていないが、役割を持ち楽しみのある生活の提供を行っていききたい。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・希望時、家族の協力を得ながら外出支援を行い、散歩等は日常的に行っている。昨年度から年に1度「思い出外出」実施、本人の希望や家族から聞き取りを行い外出している。 ・その日の希望では外出できないこともあるが、職員や家族の協力を得ながら本人の希望が叶えられるよう支援している。 	お天気の良い日には散歩に行かれたり、玄関先のベンチに座られたり、外気に触れて頂かれています。希望があれば、家族の協力を得ながら外出支援が行われています。昨年からは年に一度「思い出外出」を実施され、本人の希望や家族からの聞き取りを行ない、本人の希望が叶えられるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お金を所持している人、使える場面が少ない。 ・お金を使用する場面はあまりないが、お金を所持している利用者は訪問売店などで買い物する機会があり、自己管理できる方にはリスクを伝えたくて所持してもらっている。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話を所持されている ・電話の希望があれば支援している。 ・認知症の為、やり取りできない人が多いが、出来る人には支援している ・電話や手紙の支援をもっと増やすと良い。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日光浴ができる場所がある ・広いフロアではないので不快に思われる事があるかもしれないが、季節感のある飾りつけや作品展示、季節の花を飾っている。 ・職員が寄り添いながら支援を行っている。室温や湿度、光などに気を配り過ごしやすい空間に配慮している。 	室温や湿度、採光などに気を配りながら過ごしやすい空間になるよう心掛けておられます。季節感のある飾り付けや作品展示、季節の花が飾られています。ベランダがあり、花を育てているプランターも置いてあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所の工夫を行い、気分に合わせてソファ席に座れるようにしている。 ・ソファを配置し、利用者同士で話が出来たり日光浴ができる場所として、お互い心地よく過ごせる様にしている。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・数名の利用者は居室にテレビの配置や、使い慣れた物や作品を飾り、本人の希望に添えるようにしている。 ・使い慣れたものや好みの物は少ない利用者もある ・本人に危険がない環境で、動きやすいように本人と相談している、 ・あまり自宅から持って来られてはいたないが、それぞれ使用しやすいよう居室の環境を整えている。 	本人に使いやすい動線になるようベッドの配置も配慮されています。それぞれが居心地の良い居室になるよう馴染みの物や思い出の品を持ち込んで頂いております。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室入り口に表札、トイレ、風呂などわかりやすいように表示している。 ・1人でトイレに行ける方はその動線を配慮し、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。 		